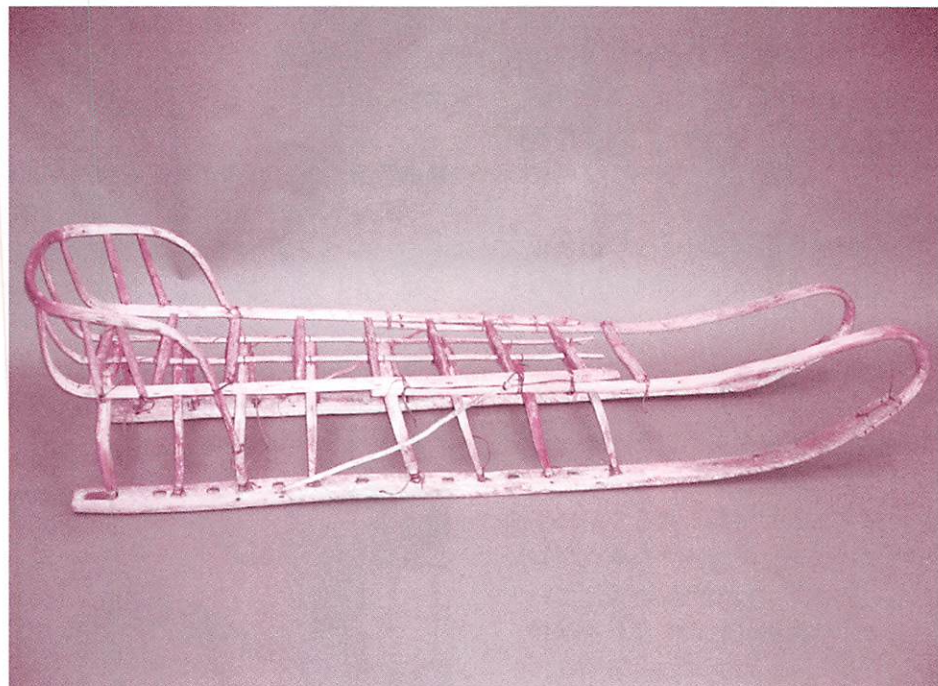




北方民族博物館だより

No.61



H17.8

白樺製女性乗用橇（コリヤーク）

Xechcho Vasilij G'ivilovich 1985年頃製作

ロシア／マガダン州／ゼヴェロ＝エヴェンスク地区／

大アウランジャヤ川／No.13. ブリガード

女性が移動の際に用いる橇。後部に子どもを乗せるため、背もたれが特別に設けられているのが特徴。競走用橇に形はよくにているが、こちらの方が重量がある。

- 1 白樺製女性乗用橇
- 2 ロビー展『西村幹也写真展～モンゴルの森・草原・砂漠の暮らし』
- 3 ロビー展『北方の船』
- 4 INFORMATION



ロビー展

『西村幹也写真展～

モンゴルの森・草原・砂漠の暮らし』

2006. 4. 28 - 6. 25

モンゴルは北をシベリアに接し、気候や植生、生息する動物などの自然環境、そして文化の面でも北方に連なる地域といえます。当館では、北方民族の一つとしてモンゴルの民族文化にも注目してきました。今回、民族資料の収集など多くの協力をいただいていた西村幹也さんの写真展を開き、関連行事を3つ行ないましたので、以下に報告します。

モンゴルというと、草原でのウマやヒツジの遊牧というイメージが強いと思いますが、今回は全50点のうち半数以上を北部のタイガ（針葉樹林帯）でのくらしを撮影した写真で構成し、生活用具やシャマンの衣装など実物資料も併せて展示しました。草原とその南のゴビ砂漠の写真も展示し、多様な自然とそこにくらす人びとの様子を紹介しました。

撮影者の西村さんは文化人類学の研究者で、15年前に中国内モンゴル師範大学、モンゴル国国立民族大学等に留学した経験を持ち、モンゴル国で調査を続けています。1994年にはモンゴル情報紙『しゃがあ』を創刊、執筆、講演、通訳、コンサートなど多彩にモンゴルを紹介する活動を行なってこられました。西村さんは撮影者からのメッセージとして、次のようなことばを本展示に寄せてくださいました（一部抜粋）。「一見、何も無い平原が広がっているだけかのような北アジアの土地は多種多様な文化に彩られています。ちょっと（とはいっても数百キロですが）走れば、異なる知恵と技術で成り立つ生活に出会えます。それぞれの土地にそ

れぞれの生活、こういった違いを知り、自分を振り返れば、沢山のことを学べます。異なることを認め、異なることを尊重することが、自分の生活をもより豊かなものにしていくと思っています。」

■講習会：モンゴルの移動式住居ゲルを建てよう

写真展では西村氏が収集した関連する民具も展示し、その一環で講習会として4月27日に移動式住居「ゲル」を建てました。前日に壁の組み立て等の準備をしていたこともあり、中田学芸員指導のもと、市民ら参加者と博物館職員が協力して作業を行い、1時間半ほどで直径6mのゲルが完成しました。

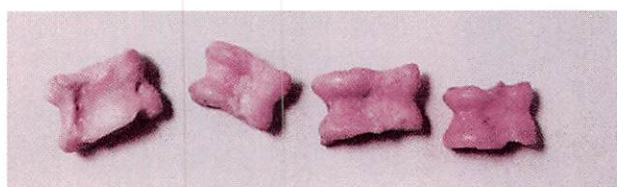


■講習会：モンゴルのおもちゃ・シャガイであそぼう

こどもの日には、ヒツジの後脚のくるぶしの骨「シャガイ」を使ったゲームの講習会を行ないました。シャガイには4つの向き（面）にウマ、ラクダ、ヒツジ、ヤギの名前がつけられていて、おはじき、お手玉、双六などさまざまな遊びができます（地域によって異なるそうです）。今回は4つのシャガイを振り、ウマの面の数だけ駒を進める「競馬ゲーム」をしました。講師の西村さんに教わりながら、3～5人のチームに分けて勝ち抜き戦を行いました。ルールは簡単でも意外にウマの面が出ないので、子どもから大人まで真剣にシャガイを振り、出た面に一喜一憂して、盛り上がりました。



右端が西村氏



シャガイ

■スライド&トーク

モンゴルの森の民—ツァータンの生活

10年来毎年通い、講師にとって特に思い入れが深いというモンゴル北部にkraツァータンの生活についての講座も5月6日に行ないました。チュルク系の言語を話すトバ民族の多くはロシア連邦トバ共和国に住んでいます。国境を隔てたモンゴル側にkra人びとはモンゴル語で「トナカイを持つ者」を意味するツァータンと呼ばれています。彼らはトナカイを飼いながら狩猟採集や漁労を行い、衣食住などに必要なほとんどのものを自然のなかから得ています。四季の自然の変化とそれに伴う移動生活、トナカイと人のさまざまな表情などを、多くのスライドを用いてご紹介いただきました。また、トナカイ数の減少や体格の小型化といった問題や、自然と人間のバランスを保つシャマニズムの考え方についてもお話いただきました。

(主任学芸員 齋藤玲子)

第21回特別展

『コリヤーク〜ツンドラの開拓者たち』

会期：

平成18年7月15日【土】～
10月9日【月】まで

会場：当館特別展示室

観覧料：

一般450円

高校・大学生150円

小中学生無料

※セット、団体料金有り



ロビー展ミュージアムコレクション 『北方の船』

2006. 4. 8 - 4. 23

今年度最初のロビー展として実物の船を中心に北方地域のさまざまな形態の船を紹介する「北方の船」展を開催しました。現在、当館の常設展示室で展示している実物大の船はスペースの制約もあってアラスカ・イヌイトのカヤック、アルゴンキン・インディアンの白樺樹皮製カヌー、トリングットの丸木船の3隻にすぎません。

これまで船に関する展示として平成7年2月～3月に第9回特別展「北方民族の船—北の海をすすめ—」を開催しましたが、公開の機会があまり無かった船もあり、収蔵庫に保管されている船を一挙に紹介することが今回のロビー展の目的でした。とくに長さ8m65cmのニブフの板船は収蔵庫から搬出する機会がありませんでしたが、搬出作業に多くの人手をかけてようやく展示することができました。

北方の船の材料は環境を反映しており、森林地帯では丸木船および板船、針葉樹林帯では樹皮船、そしてツンドラ地帯では獣皮船が使われてきました。これら北アメリカ、グリーンランド、北海道、ロシア極東地域など北方地域で使われてきた実物資料9点、関連する模型資料など約30点、そして樹皮カヌーや丸木船などの製作過程を紹介した映像を展示しました。短い会期でしたが、472名の方々に観覧いただきました。

(学芸主幹 渡部 裕)



INFORMATION

秋篠宮さまご来館

◆6/3 [土] 網走市で開催された生き物文化誌学会のエクスカージョンで、秋篠宮さまがご来館になりました。

職業体験

◆6/7-6/9の三日間、北海道清里高等学校の2年生が、受付や中学生の体験学習指導のアシスタントなどの職業体験を行いました。



◆博物館で去年咲いたマリーゴールドの種を来館者にプレゼントしました。
◆インターファーム株式会社(網走市)から寄贈を受けた、ペチュニアやペゴニアなど800株を、ボランティアと職員で博物館の花壇に植えつけました。



行事報告

◆5/28 [日]『おたのしみ付北方民族博物館ツアー』を開催しました。普段は公開していない、収蔵庫などの施設見学をはじめ、調査・研究や収集・保管といった博物館の活動について紹介しました。



◆6/10 [土]『博物館クラブ 革でつくるストラップと写真入れ』を開催しました。北方民族の毛皮や革利用について実物資料にふれたり、展示室を観覧したりして学んだ後、革を使ってのストラップと写真入れづくりに挑戦しました。



要覧

要覧2006年度版を発行しました。

指定管理者

北海道立北方民族博物館は平成18年4月1日から平成22年3月31日まで、財団法人北方文化振興協会が指定管理者となりました。

設置者は北海道教育委員会（北海道教育庁生涯学習部生涯学習推進局生涯学習課 011-204-5742）です。

職員の異動等

◆平成18年4月1日現在の組織 [指定管理者]

館長 谷本 一之
副館長 椎名 惟義
(平成18年3月31日

北海道教育庁退職)

博物館課長 富塚 和美
主査(総括) 佐々木智英
主査(本部) 竹内 道生
主任 小林ひろみ
主事 安藤 芳恵

石原生久代

菅原 章子

中尾 亜未

浜野 志枝

臨時職員 中村 裕美

[北海道教育庁 生涯学習課

北方民族博物館グループ

(北海道立北方民族博物館駐在)]

学芸主幹 渡部 裕

主任学芸員 齋藤 玲子

学芸員 笹倉いる美

中田 篤

角 達之助

◆異動

(北海道教育庁からの派遣解除)

管理課管理係長 芦口 由紀

財団法人アイヌ文化振興・

研究推進機構派遣

管理課主任 高橋 義人

北海道教育庁給与課

(退職)

管理課主査 谷内 輝勝

管理課解説員 小川 弘恵

堤 圭子

北方民族博物館だより No.61

平成18(2006)年6月30日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
e-mail: tonakai@hoppohm.org
http://hoppohm.org

指定管理者

財団法人北方文化振興協会